



社会福祉法人 愛恵会  
養護老人ホーム五葉寮  
いきいき福祉センター  
釜石市鵜住居町2-20-1  
☎0193-28-3005(本部)



落成式のあとに開かれた新年会では、職員が「七福神」に扮し、復興再開の嬉びを分かち合いました



デイサービスセンター



養護老人ホーム五葉寮

## 震災から約3年振りに全事業を再開 施設に笑顔が戻る

釜石市の社会福祉法人愛恵会(小笠原文一理事長)が運営する養護老人ホーム五葉寮(五葉寮いきいきデイサービスセンター・老人短期入所施設を併設)は、鵜住居川から約1km上流にあり、東日本大震災で施設機能を失いました(※機械室全壊、居室を併設)は、鵜住居川から約1km

震災から約3年余りとなる平成25年11月28日。鵜住居川から約4km上流に養護老人ホーム五葉寮・いきいき福祉センターが移転新築され、これにより全ての法人事業が復興・再開しました。

養護老人ホームは鉄骨造り2階建て(個室50室)、広さ $2,588\cdot4\text{m}^2$ 。デイサービスセンター(定員30名)と老人短期入所施設(2室)を併設しています。福祉センターは木造平屋建て、広さ $282\cdot38\text{m}^2$ 。ヘルプセンターのほか、地域交流ホールを併設しています。

2つの施設は国の災害復旧事業費補助金、五葉寮災害復旧施設整備費補助金、介護基盤復興まちづくり事業などで建設されました。

### 9ホームが入居者を受け入れ

大震災から復興までは苦難の道のりでした。震災時の職員は76名、



明るく広々とした養護老人ホーム

役員・評議員は21名でしたが、入居者とデイ利用者の2名が尊いのちを失い、職員2名と役員1名が犠牲となりました。

震災の翌日、ホーム入居者およびデイ利用者67人は、鵜住居・栗林・橋野地区の消防団や地域の方々の支援で3か所の避難所に分散避難。その後は栗橋地区基幹集落センターに集約避難しました。

その後、ホーム入居者の安全を確保するため、3月22日に県高齢協などの支援で県内の養護老人ホーム9施設(※玉寿荘(盛岡市玉山)、松寿荘(零石町)、清和荘(盛岡市)、宝寿荘(石鳥谷町)、はなまき荘(花巻市)、北星荘(北上市)、寿水荘(奥州市水沢)、江寿園(奥州市江刺)、長寿の森吉祥園(遠野市)に受け入れをお願いし、措置移転しました。

一方、介護系サービス事業は3月15日に鵜住居・唐丹地区の居宅介護支援センターで、デイサービスは4月から栗橋診療所跡の建物で再開。

23年8月から鵜住居地区高齢者等サポートセンターを市から受託運営しました。

復興再開は「現地原形復旧」から「移転新築」へと二転三転しただけに、法人職員及び地域住民の喜びは計り知れません。

現在のホーム入居者は入居待機者を含めて44名(平均年齢は80代後半)。震災前は50名だったホーム入居者のうち、新しい施設に戻られた方は31名。この3年間で亡くなったり、避難先の施設で生活している方もいます。

### 全員の力で復興再開

現在のホーム入居者は入居待機者を含めて44名(平均年齢は80代後半)。震災前は50名だったホーム入居者のうち、新しい施設に戻られた方は31名。この3年間で亡くなったり、避難先の施設で生活している方もいます。

受けた出席可能な理事・評議員が会議を開き、法人事業の復興を確認しました。利用者や役職員も被災する中、入所者の安全を確保しながら、みんな前向きでした」と、久保喜雅施設長は復興再開への決意を示した当時を振り返ります。

しかし、当初の施設再建の基本方向は「津波の心配のない安全な場所へ土地を確保して移転新築し、地域住民の安心できる避難場所として施設を設置する」ことでしたが、財政的な理由から移転新築を断念。やむを得ず「現地原形復旧」を選択せざるを得ませんでした。

その後、釜石市長の意見を踏まえて安全な場所への新築移転を再度検討。市長の意見書を添えて、県に「移転に係る協議書」を提出し、移転改築が承認されました。

復興再開は「現地原形復旧」から「移転新築」へと二転三転しただけに、法人職員及び地域住民の喜びは計り知れません。

### 在宅サービスの充実に懸念

現在のホーム入居者は入居待機者を含めて44名(平均年齢は80代後半)。震災前は50名だったホーム入居者のうち、新しい施設に戻られた方は31名。この3年間で亡くなったり、避難先の施設で生活している方もいます。

入居者のAさん(72)は「新施設で

